

TN 型(全量圧入方式)

[運転のしくみ] ※自動交互運転の説明です。

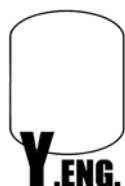
- 1)水栓を開くと、圧力タンク①の空気圧により送水口⑦を通り、圧力タンク①内の水が送水されます。
- 2)水位が下がりますと、圧力タンク①内の圧力が低下し、設定された圧力迄下がりますと、圧カスイッチ⑩が作動し、給水ポンプ P1 又は P2 が運転を開始します。
- 3) 給水ポンプ P1 又は P2 が始動しますと、その揚水は給水管②、空気補給槽④、圧入管③、圧入逆止弁⑥を通り圧力タンク①に入ります。
- 4) 圧力タンク①内の水位が上がりますと、内圧が上昇しますので、設定された圧力で圧カスイッチ⑩が作動し、給水ポンプは停止します。
- 5)水の使用により再度圧力タンク①の圧力が下がりますと、圧カスイッチ⑩が作動し、給水ポンプが運転を開始致します。
- 6)以後 3)・4)と同様の運転動作を行い、給水ポンプは停止します。
- 7)以上の動作を繰り返し、給水ポンプ P1・P2 は自動的に交互運転を行います。

[空気補給のしくみ]

- 1)圧力タンク①内の水位が上限電極⑪に達しますと、給水ポンプが停止するごとに排水電動弁⑨が開いて、空気補給槽④の水を排水します。
- 2)排水によって、大気が吸気弁⑤より空気補給槽④に入り、一定時間後排水電動弁⑨はとじます。
- 3)給水ポンプ P1 又は P2 が起動しますと、揚水は給水管②空気補給槽④を通り空気補給槽④の空気を圧入逆止弁⑥を通して、圧力タンク①内に押込みます。
- 4)この動作をポンプ発停ごとに繰り返して行えば、圧力タンク①内の水位は順次低下します。
- 5)水位が下限電極⑫以下になりますと、排水電動弁⑨は動作しなくなります。従って、再び圧力タンク①内の水位が上限電極⑪に達する迄、空気補給は行われません。

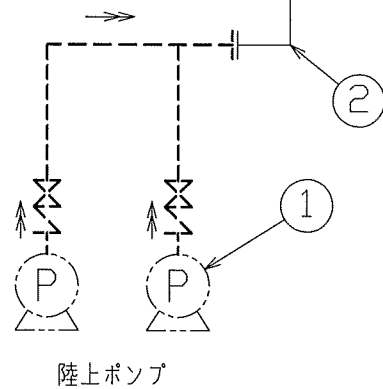
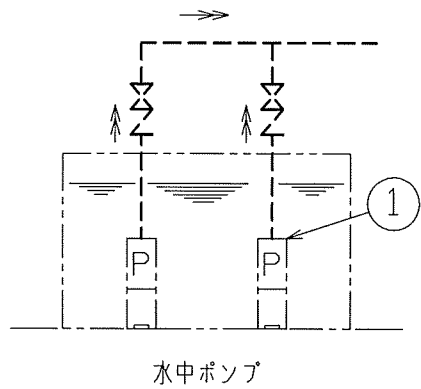
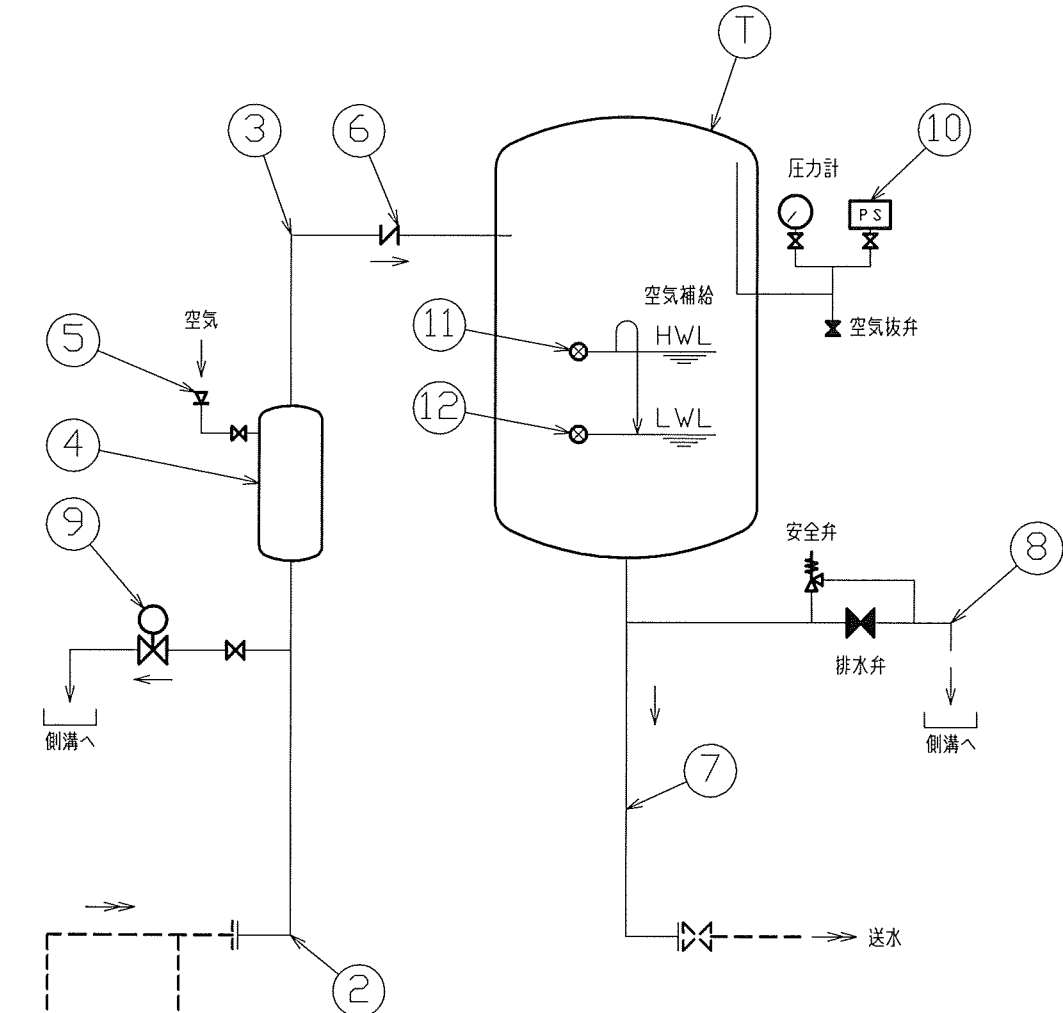
[特 長]

- ・現在市販されている圧力タンク方式給水装置の原点ともなる型式です。
シンプルなシステムで、メンテナンスがほとんど必要なく、給水圧力が圧力タンクで設定された圧力で、完全に制御されます。
- ・ポンプ運転中は、ポンプ効率の良い流量範囲で運転されますので、電力消費量が他の機種より少なく、3年～5年の期間で考えた場合、大幅な消費電力の節約につながります。
- ・圧力タンク容積は、他機種に比較して大きなものを必要とします。



～ 水と空気をつなぐ絆 ～

番号	名称
1	給水ポンプ
2	給水管
3	圧入管
4	空気補給槽
5	吸気弁
6	圧入逆止弁
7	送水口
8	排水管
9	排水電動弁
10	圧カスイッチ
11	電極<上限>
12	電極<下限>
T	圧カタンク



- ⊗ 常時開
- ◀ 常時閉
- 所掌外

TN型
圧カタンク系統図